

野生鳥獣総合管理対策事業の概要(H23)

参考資料6

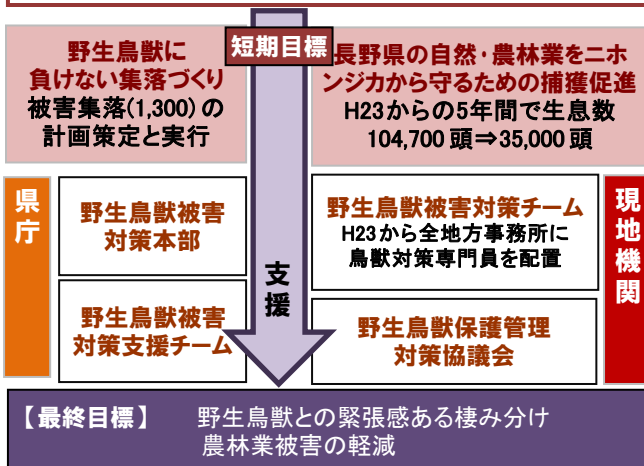
深刻化するニホンジカなどの野生鳥獣による農林業被害や自然環境被害に対応するため、組織の連携や体制強化を図り、野生鳥獣に負けない集落づくりと、長野県の自然・農林業をニホンジカから守るための捕獲を促進し、野生鳥獣との緊張感ある棲み分けと農林業被害の軽減を図ります。

● 事業内容

【単位: 予算額(千円)】

区分	事業内容	実施主体	補助率	予算額(千円)	
指導体制整備	林務	クマ対策員, 保護管理人材養成, 現地指導	県	—	8,588
	農政	被害対策技術の普及指導体制整備, 集落リーダー育成	県	—	2,524
防除対策	林務	追い払い・造林木保護等の実施, 必要な資材の購入	市町村等	1/2	8,030
	農政	農業被害防除対策	県	—	3,313
	環境	ニホンジカによる植生被害対策	県, 市町村	10/10	4,229
捕獲対策	林務	●集落ぐるみの捕獲促進事業 ・集落における捕獲体制の整備への支援 ・(拡充)モデル集落を設置し効果的な捕獲に向けた課題を検証	市町村等	1/2	745
		●個体数調整捕獲報奨金 ・市町村が捕獲者に支給する報奨金に対する支援 ・(拡充)メスジカに対する報奨金を2,800頭から6,000頭に拡充	市町村等	—	16,350
		●有害鳥獣捕獲者支援事業 ・広域有害鳥獣捕獲従事者に対する保険料等の経費支援 ・(拡充)強化期間を設けて実施する有害鳥獣捕獲従事者まで支援対象を拡大	市町村等	1/2	4,500
		●シカ捕獲技術普及・伝承事業(雇) ・県からの受託者は捕獲隊を編成し、被害拡大区域でのシカ捕獲を実施 ・行政機関と捕獲隊が連携した捕獲により捕獲技術を普及・伝承	県	—	24,000
		その他(広域捕獲経費支援, クマの学習放獣, 捕獲資材・搬出資材の購入, 新規狩猟者確保支援, 狩猟対象の放鳥)	市町村等	1/2	13,565
生息環境対策	林務	緩衝帯整備	市町村等	1/2	6,054
シビエ振興対策	林務	ジビエ利用推進研修会, ジビエハンターの養成等	県	—	342
	商工	研究会成果の普及(ゼロ予算)	県	—	—
	観光	地域でのPR(ゼロ予算)	県	—	—
林務部合計(野生鳥獣総合管理対策事業)				82,174	
調査研究	林務	特定鳥獣生息状況調査, 野生鳥獣モニタリング(林業総合センター), 特定鳥獣保護管理計画の策定	県	—	19,889
	環境	野生鳥獣モニタリング(環境保全研究所)	県	—	2,003
総合	農政	鳥獣被害防止総合対策事業(交付金)	市町村等	定額等	785,000
林務部合計(野生鳥獣対策関連事業)				102,063	
他部合計(野生鳥獣対策関連事業)				797,069	
長野県合計(野生鳥獣対策関連事業)				899,132	

【背景】野生鳥獣による農林業被害 ニホンジカの急激な増加



第3期特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）について

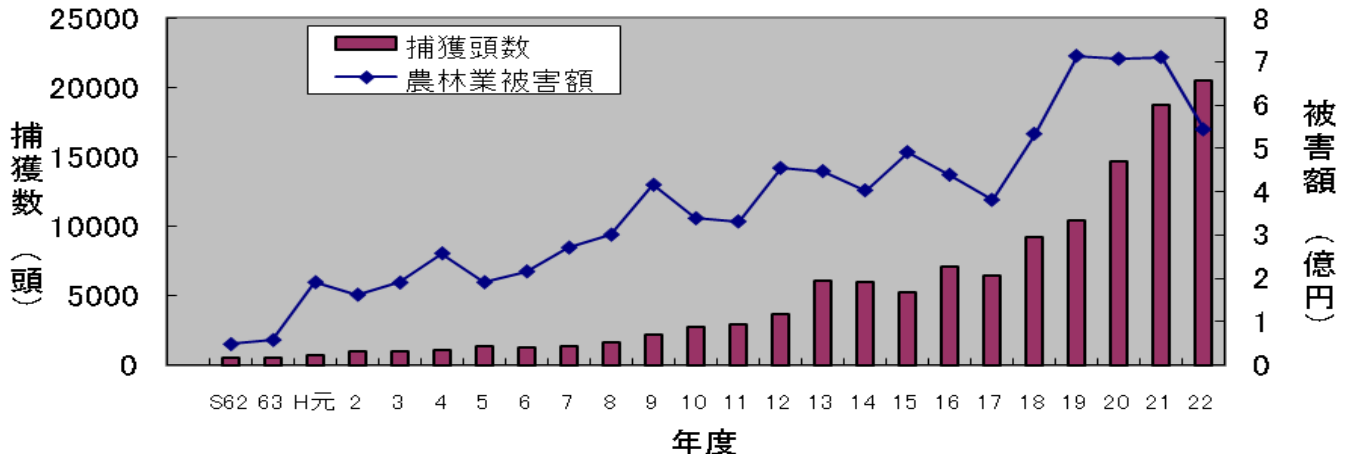
野生鳥獣対策室

1 ニホンジカ被害、捕獲状況

ニホンジカの農林業被害額は、平成22年度 約5億4千万円で、前年度より減少したものの依然として高い状況にある。

また、狩猟及び個体数調整による捕獲頭数は、平成22年度は2万頭を超え、年々増加している。

ニホンジカの捕獲数及び農林業被害の推移



2 第3期特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）の概要

(1) 基本方針等

ア 計画期間：平成23年4月1日から平成28年3月31日(5年間)

イ 対象地域：県下全域

ウ 保護管理の基本目標

- ・農林業被害の軽減
- ・自然環境への影響の軽減
- ・個体数の削減、地域個体群の安定的な維持

(2) 捕獲目標等

ア 推定生息頭数：約10万5千頭

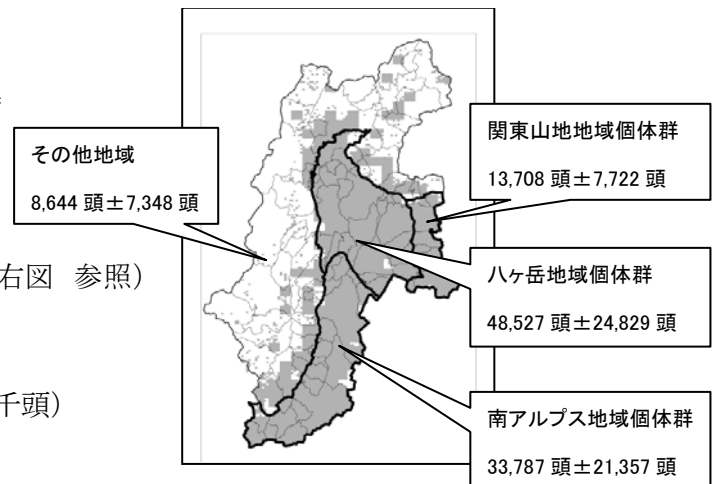
(地域個体群別生息頭数：右図参照)

イ 計画期末の生息目標：約3万5千頭

ウ 捕獲目標：年間2万5千～3万5千頭

(うちメス1万8千～2万6千頭)

図 地域個体群ごとの生息頭数



(3) 個体数管理の推進方法

ア 個体数調整による捕獲、特にメスジカの捕獲を重点的に実施し、加えて狩猟による捕獲を促進

イ 国、隣接県・市町村等関係機関と連携した広域的な捕獲の実施

ウ 集落ぐるみの捕獲の促進

エ 捕獲者の育成・確保